

忌避意識って何？

忌避意識とは！？

ここでいう忌避意識とは、被差別部落を避けようとする意識です。

誰もがもつ「差別されたくない」という願いがもとになり、被差別部落出身者と結婚すれば、あるいは、自分が被差別部落に住めば、「被差別部落出身者であるとみなされて、部落差別を受けるかもしれない。それは避けたい」という意識です。

なぜそこまで避ける？ 忌避意識の構造

被差別部落や
被差別部落出身者に対する
マイナス情報

世間から
被差別部落出身者と
見られたくない

被差別部落
出身者に対する差別
身元調査や問い合わせ
インターネットなどでの
差別的な情報

世

間

被差別部落に対する偏見
部落差別に対して無関心

世間が持っている
あいまいな
被差別部落出身者の
判断基準

〈差別を受けたくない〉
〈世間からどう見られるか〉

忌避意識は差別への加担につながる

被差別部落出身者や被差別部落の土地を避ける行為は、部落差別をより強固にするもので、積極的に差別に加担しています。

例えば、被差別部落の土地を忌避する行為は、更なる忌避を生むことになり、被差別部落の土地に対する市場の需要を抑え込み、土地価格を引き下げることにつながります。結果として、差別が市場価格という社会システムに組み込まれます。「避けること」を差別と認識せず、「差別しているつもりがない」「自分たちも差別されるかもしれないから、その土地に居住することをやめたのであり、差別する意図がなかった」と主張する人もいますが、意図の有無がどうであれ、差別に加担していることは同じです。むしろ「差別の意図はなかった」という主張を肯定することは、差別行為について大した問題ではないと見過ごすことにつながります。

県民の中に忌避意識が根強くあることは、県民意識調査や宅建実態調査の結果からも明らかです。また、部落差別解消推進法が指摘をしたとおり、インターネット上には、部落問題に対する偏見や差別的な情報が溢れています。被差別部落の地名や所在地、本人の了承なしに無断で被差別部落出身者の個人情報第三者によって公開されているような状況です。そのことが土地調査や身元調査を容易にしまい、部落差別に拍車をかけています。